

●モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 16-3

子どもにとっての学級

目次

学級集団と学級担任	深谷昌志	2
〔調査レポート〕 子どもにとっての学級	深谷昌志・三枝恵子・土橋 稔	7
要約		8
はじめに		12
1. 調査の概要		13
●調査対象の属性		13
●担任と子どもたち		19
●クラスの友だち		21
2. 学級への満足度		28
●学級への満足度		28
●学級への満足度の差		33
3. 学級への満足度を規定する要因		41
●担任と子どもの関係		42
●クラスの雰囲気		46
●クラスの友だちとのつきあい		49
4. 学級への満足度と担任への満足度		57
●4つの群		57
●学校での生活の仕方		62
●クラスの友だち関係		64
●教師との関係		69
●自己像とのかかわりで		72
●まとめて代えて		74
〔対談〕 学校経営と学級経営	小島弘道 vs 深谷昌志	75
・文献紹介『学年主任の職務とリーダーシップ』		83
資料1 調査票見本		87
資料2 学年・性別集計表		94
資料3 調査票見本および集計結果（教師用）		103

*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

学級集団と学級担任

静岡大学教授

深谷昌志

学級作りをする教師

学校で子どもたちは、どこかの学級に所属している。そして、その学級を教師が統括している。形式的にみるとその通りだが、それぞれの学級には学級なりのまとまりがあり、その学級らしさがある。発言の活発な学級や男女の仲のよい学級、勉強に熱心な学級など、人の性格と同じように、学級には個性がある。

教育現場には古くから「学級作り」という言葉があった。教師は新学期、担任になると子ども一人ずつの個性をつかみながら、集団としてのまとまりを作っていく。授業を円滑に進めるためにも、「学級作り」が重要という教師が少なくない。そして、まがりなりにも、教師の思うように学級が動くようになるには何週間かが必要だという。

そうした形で担任が指導力を発揮し、子どもたちの学級に対する帰属意識を強め、学級の友だちをなんでも話せる一種の身内集団に

する。具体的には、クラスの歌を作ったり、クラスの旗を決めたりして、学級を自分たちで作りあげる。学級の中では、家族と同じように互いに信頼し、助け合いながら行動していけるような雰囲気を作る。

学級はひとつの完結した自治組織で、子ども集団のまとまりを担任が指導していく。その延長線上に、いわゆる学級王国の理想が位置しているし、教育実践はそうした学級王国的な土台をふまえているものが多い。

王国とはいわないまでも、学級作りはどの担任も心がけているから、学級を土台にした活動はどここの学校にもある、ごくありふれた光景になる。そうした意味では日本の教師は、授業をする人というより、「1年2組」というような学級集団の統率者の性格が強い。

子ども一人一人の教師

こうした担任と子どもとの関係は、「好意的」と「批判的」との両面からとらえること

ができよう。好意的な見方をするなら、学級の子どもたちは担任を信頼し、担任も子どもたちに愛情を注ぐ。その結果、担任と子どもたちとの間に家族関係にも似た共同体意識が生まれる。

反面、冷たく突き放した批判的な見方をするなら、担任は学級の中にいる唯一のおとなで、子どもたちの行動は担任からの規制を受ける。もちろん、多くの教師は意欲的に子どもたちの指導にあたっていようが、仮に担任が教師としての適性に欠けていても、学級は密室なので、担任の不適格さは表面化しにくい。子どもに体罰を振るう担任の行動が続きがちなのも、こうした教室の密室性を背景に考えると理解しやすい。見方によれば、担任は子どもの社会に君臨する専制君主である。

このように、多くの担任は「共同生活体の統率者」であろうが、「子ども社会に君臨する専制君主」にもなれる。そこで、実際に子どもにとって担任がどういう意味を持つのかを知りたくなった。

それが本号の調査の狙いだが、それはともあれ、欧米の学校をイメージに置くと、こうした学級担任や学級集団というカテゴリーはそれほど当たり前でないのがわかる。

アメリカのどこかの学級をイメージしてみよう。授業の始まる前は学級にいる子どもたちが、授業が始まると離ればなれになる。何人かが集まって担任の指導を受けているかと思うと、他の何人かは自主学習をしているし、ボランティアの人から1対1で勉強を見てもらっている子もいる。そして、次の時間になると、子どもの組み合わせが変わり、また別の学習形態が見られる。

アメリカの学校では、もともと一斉授業が少ない。そして、一人一人の子どもが自分なりの学習計画表を持っていて、それに応じて行動している。つまり、学習の個別化が進み、子どもたちはそれぞれに学習をしているので時間帯によって、1人、あるいは少人数、そしてクラス全員といったように、学習する仲間の構成が異なる。そうすると、子どもたち

は学級という意識を持たなくなるが、それ以上に、担任が学級を統括する感じが失われていく。

そうした意味では、アメリカの教師は学級集団の統率者ではなく、子ども一人一人にとっての教師であろう。したがって、欧米の学校でも担任の教師に対する評価は成り立つと思われるが、それは個々の子どもたちの担任に対する気持ちであって、学級意識を介在した教師評価でないのは確かであろう。というより、多くの子どもたちは自分の通っている学校には帰属意識を持っていようが、学級という感覚は欠落、あるいは希薄のように思う。

伝達型の破産

学級を背景に、子どもに知識を伝達していく。このような日本の教師の指導の形は、日本の学校の歴史的な発展過程を視野に入れると理解しやすい。改めてふれるまでもなく、日本の学校は、近代化の遅れた日本で欧米諸国との差を取り戻すために、土着の文化を切り捨て、西欧の知識の伝達を急ごうとした。当時の日本の状況の中では、名頭や国頭、和算、往来物などの伝統的な知識の獲得が望ましくとも、欧米の文化に追いつくために、欧米の歴史や地理を学び、洋算を身につけ、科学的な思考を獲得することが重要だった。それだけに、翻訳教科書の利用に象徴されるような社会的な必要性が優先され、民衆の教育期待に沿ったものではなかった。

特に、財政的に逼迫した状況の中で短期間に、体系立った西欧的な教育の展開を目指したので、そうした条件下に成立した日本の学校は、欧米の学校と質的に異なる性質を備えていた。

しかし、現在、学校をめぐる状況は大きく変わりつつある。中でも、学校の主目的であった知識を伝達することの意味が変質してきている。換言するなら、一昔前と比べ、子どもたちが知識を身につける必要が薄れている。

こうした変化を視野におくと、これからの

学校は、「知識を集団の形で効率よく伝達する場」から、「子どもたち一人一人の個性を尊重し、子どもたちが自発性を発揮させる場」へ、学校の目標を大きく転換する必要がある。子どもたちが「受け身で教育される形」から「自発的に学習する形」への変化である。

このように、情報化社会の到来につれて、学校の果たす役割は大きく変わろうとしている。さらにいうなら、おとなになるために必要な知識の量は、過去と比べ飛躍的に増加してきた。とはいえ、学校の授業時間の枠は昔と変わらないので、学校は必要な知識を子どもたちに伝達するのに追いつまらぬ感じになる。そう考えると、教師たちが授業内容の消化に手いっぱいという状況は当然の帰結という気持ちがしてくる。残念ながら、このままの形で知識の増加が進展すると、学校の授業の枠内で必要とされる知識の伝達は不可能になる日も近い。

しかし、情報化社会の到来の持つ意味は、知識の爆発的な増加にとどまらない。知識そのものの有効期間が短縮され、知識の陳腐化も進む。家庭科や理科、そして社会科などでは、20年前の教材は現在の使用に耐えないと思う。具体例をあげるなら、冷凍食品の普及は予想を上回るものだし、冷たい戦争の終焉は世界の政治構造を一変させた。また、環境保護の動きは20年前と比べようがないくらい高まっている。したがって、知識の陳腐化が進むと、知識に対する信頼が薄れ、知識を伝達することの意味が弱まってくる。

問題解決型への転換

歴史的に学校が伝達型であったのはやむを得なかったし、日本の学校が伝達型として優れた働きをしてきたのは高く評価されるべきであろう。しかし、これからの社会では伝達型の学校は使命を終え、問題解決型への転換が望まれている。それだけに、学校は知識の伝達機能を緩め、子どもたちが自主的に学習に取り組む問題解決型の学習の場に発想を転

換させる必要性を感じる。

教育史をふりかえると、問題解決型の教育は現代の課題なのでなく、昔からそうした実践を試みた先達がいるのに気づく。ひとつは大正自由教育の遺産で、手塚岸衛や及川平治、木下竹次、信州なら山本鼎などの実践がその一例になる。子どもの自主性を尊重して、子どもを生き生きとさせようという試みに時代を超えた新鮮な感じを受ける。

もうひとつは、第2次大戦後のコア・カリキュラム運動で、北条プランや川口プラン、明石プランなどが代表例となる。子どもたちの経験を基本に学習内容を編成していこうとする態度に、教育実践としての確かさを感じる。これらの実践は理論的にみると、現在の教育に十分通用する優れた内容のものが多く、しかし、時代を先取りしすぎていたためか、活動が盛り上がったのは短期間で、強い影響を与える前に終焉の時を迎えた。

もちろん、問題解決型の学校では子どもたちの自主性を尊重しようとするので、学校そのもののきまりが緩やかになる。細かな校則で子どもを縛っておいて、子どもの自主性が育つわけがない。したがって、学校としては上意下達型の規則づくめの学校からの変身が必要であろう。具体的には、身近な校則の見直し、学校行事などで子どもたちの自主性を認める、学級の枠を緩めてチーム・ティーチングを試みるなど、学校を硬構造から軟構造な場に変質し、子どもたちから親しまれる場に変えていくことが望まれよう。

脱学校論で知られるアメリカの教育者ベライターは、教師の仕事を「スキル・トレーニング」と「テイク・ケア」とに分類している。前者は「学力の伝達」、後者は「人間的なふれあい（カウンセリング）」的な意味合いを持つ。

このカテゴリーを使うなら、日本の教師たちは、知識の伝達、つまり「スキル・トレーニング」に力を注いできた。五段階教授法に象徴されるように、教え方のうまさも日本の教師を象徴していた。そうした教師の働きが

日本の学校を支えてきたのは確かだし、現代でも、日本の教育では欧米のような学力の低下がほとんど問題になっていない。

しかし、不登校やいじめなど、学力の保証でなく、子どもたちの心をめぐる対応が大きな問題になりつつある。そうした意味では、教師の「テイク・ケア」的な働きが求められているといえよう。

もっとも、考えてみれば、昔でも優れた教師は単なるスキル・トレーナーでなく、テイク・ケア的な役割を果たしていた。というより、教え方もしっかりしているが、人間的に

も魅力があるのは、時代を超えて理想的な教師の姿なのかもしれない。

特に、これからの学校では一人一人の子どもたちに自信を持たせ、自分から学習に取り組む姿勢を持つ子を育てようとしている。そうした方向の改革を実現するには、学校のあり方の転換、中でも、スキル・トレーニングと同時に、テイク・ケアへの教師の意識の変革が必要であろう。教え方のうまさより、子どもの話し相手になれる資質が、これからの教師に求められるように思われる。

〔調査レポート〕

子どもにとっての学級

静岡大学教授 深谷昌志

埼玉県立松山高等学校教諭 三枝恵子

杉並区立杉並第六小学校教諭 土橋 稔



調査レポート

子どもにとっての学級

要約

●調査概要

1. 調査主題 子どもにとっての学級
2. 調査視点 子どもたちにとって「居心地のよい学級」とはどんなクラスか、居心地のよさを規定する要因は何かを探ることを目的とした。さらに「学級への満足度」を尺度として、子どもたちの学級への満足度を高める要因や、「学級への満足度」と「担任への満足度」との関連を分析した。
3. 調査項目 子ども調査と担任をマッチングしたアンケート調査。
子ども調査＝学校生活の様子、担任との接触、担任イメージ、クラスへの満足、担任への満足、クラス評価、自己像など。
担任調査＝学級経営、クラス評価、クラスへの満足度とその変化、悩み、など。
4. 調査対象 東京・千葉の小学校4・5・6年55クラス、児童1,766名と担任55名。
5. 調査時期 1996年3月
6. 調査方法 学校通しの質問紙調査。
7. サンプル数

(人)

		児童	担任			児童	担任
性別	男子	875	22	学年別	4年	566	17
	女子	884	33		5年	580	18
	合計	1,759	55		6年	620	20
			合計		1,766	55	

(児童：性別無記入7名有)

1. 担任のクラスへの満足度の変化をみると、1学期の始めの頃は「とても満足」が9%、「わりと」を含めるとほぼ5割が自分のクラスに満足し、逆に、不満を持っている担任が3割いる。学年の終わりの頃になると、8割の担任が自分のクラスに満足している。(図1)

2. 担任のクラス評価は、平均を60点とすると、70点以上と評価する担任は85%。一方、子どもたちは、70点以上と評価する割合は72%、50点以下が20%もあり、担任の自己評価との差が大きい。(表3・14)



3. 「今の担任になってよかったか」と尋ねると、「とてもよかった」39%、「わりと」を合わせると67%の子どもたちが、今の担任に満足している。(表7)



4. 子どもたちのクラス評価は、今のクラスが「とても・わりと好き」な子は7割、学年が変わっても今のままのクラスが「とても・わりとよい」と答えた子が6割、そして「今のクラスになってよかったか」と尋ねたところ、「とてもよかった」42%、「わりと」を合わせると7割の子が今のクラスに満足している。(表15・16・17)



5. 「今のクラスになってよかったか」の「とても・わりとよかった」を「学級への満足度」のスケールとして数値で示すと、満足度の平均値は71%、クラス別では全員「満足している」、つまり満足度が100%から13%まで、クラスによって大きな開きが見える。「担任への満足度」の平均値は67%である。(表18)

6. 「学級への満足度」を学年別の平均値でみると、4年生は76%、5年生は64%と減少するが、6年生になると73%と上昇する。担任の属性では、5年生の担任の平均年齢が34.9歳、教職経験が11.6年と、他学年と比べてやや差があるものの、担任自身のクラス評価には大きな差はみられない。(表19・20)

7. 「学級への満足度」を性別で見ると、男子に比べ女子の満足度が高い。担任の性別と子どもの性別との関係では、担任の性別では関連はみられない。「担任への満足度」では、女性の担任のクラスの男子は担任への満足度が低く、女子との差が顕著である。(表24・25)

8. 上位群と下位群との差

・「学級への満足度」が高い上位群は「担任への満足度」も高い。一方、「学級への満足度」の低い下位群は担任に不満を持つ子どもが2割いる。(表28・31)

・「一緒に遊んだことのない子」「ボスマみたいな子」「先生の前だけ、よい子の

ふりをする子」「すぐ、暴力をふるう子」「人の悪口をよく言う子」など、クラスを特徴づけるような子が下位群に多く、クラスの中でうまく人間関係がつかれない状況がうかがえる。(図2)

・下位群のクラスは、「授業中、隣や後ろの子とむだ話をする子が多い」「昼休み、自分の好きな子だけで遊ぶ子が多い」「失敗すると、「エー」と言ったり、笑ったりする子が多いので発表しにくい」雰囲気がある。クラス内でお互いを認め合う関係がうまくできておらず、子どもたちが安心して生活できない状況がみられる。(表32)

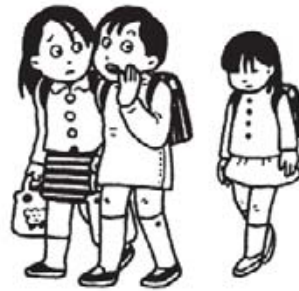
・上位群のクラスでは、「先生と仲がよく」「まとまりがあり」「男女の仲がよく」「クラスの約束をよく守る」と、クラスに対しプラス評価をしている。そして「学級への満足度」が高くなると、学校に来るのが楽しくなり、成績や自己評価を高め、学校生活を充実させている。(表34・39・40・41)



9. 「学級への満足度」と「担任への満足度」の関連

・「学級への満足度」の平均値71.2%、「担任への満足度」の平均値66.5%で線を引くと、学級と担任への満足度がともに高い群（A群）、学級への満足度は高いが担任への満足度は低い群（B群）、学級への満足度は低いが、担任への満足度は高い群（C群）、学級と担任への満足度がどちらも低い群（D群）の4群がみられる。（図4、表42）

・クラスの雰囲気を見ると、C・D群では友だちどうしで冷やかしたり中傷したりする関係があり、学級への満足度を低くする要因となっている。（表44）



・担任イメージをみると、B群は担任の高圧的な言葉や態度がみられ、クラス

は楽しくまとまりがあるが、担任は勉強を熱心に教えてくれず、権威的で傷つくような吐き方をするので、担任への満足度を低くしている。C群の担任は温かく接しているが、クラス全体が学級集団として組織されず、担任への不満はないが、ややルーズでまとまりがないことが学級への満足度を低くする要因となっている。（表48・49）

・A群の子どもたちは、学級へも担任へも満足した生活をしており、クラスの中でお互いを認め合い、人間関係が安定している。さらに、学校は楽しく充実しており、自己像や学業成績に自信を持って生活している。（表43・50・51・52）

10. 教師、クラスの安定した学級集団では、子どもたちが活気に満ち充実した学校生活を送り、高い自己像が形成される。担任とクラス、いずれかの満足度では、クラスへの満足度の高い方が子どもたちの学校生活は充実している。もちろん社会的に未発達な小学生にとって、安定した学級の人間関係を支えていくための教師の存在の大きさはいうまでもない。



●

はじめに

学校という、とかく社会から閉鎖されがちな環境の中で、子どもたちはどこかの学級に所属して一日の多くの時間を生活している。担任は、新学期のはじめ指導力を発揮して、子どもたちの学級に対する帰属意識を高め、1つのまとまった学級集団を作ろうとする。子どもたちは、学級を1つの単位としてお互いに助け合い、協力しながら日々の学習活動や学校生活をしている。子どもたちは必ずどこかの学級に所属しなければならず、学級は担任と子どもたちだけで構成されており、外部から閉ざされた環境にある。それ故、子どもたちの成長発達に担任や学級の雰囲気を与える影響は極めて重要である。

これまで、学級担任と子どもたちとのかわりには「担任への満足度」をキーとし、「子どもの求める教師」「教師の子ども観」について調査分析を試みた。その結果、子どもた

ちは一人一人の子どもの動きに敏感に反応する教師を歓迎し、子どもとの人間的な触れ合いの中で互いの信頼関係を築いている教師を求めていることがわかった。

今回は、そうした学級で生活している子どもたちにとって、居心地よい学習環境としての「学級」とはどのようなものであるのか、子どもたちが抱く「学級への期待」や、「学級への満足度」を高める要因とは何なのかを探ることを目的とし調査を試みた。さらに子どもたちの「学級への満足度」と「担任への満足度」とはどのような関係があるのかも明らかにしようとした。

なお、担任と子どもたちの関係は『モノグラフ・小学生ナウ』Vol.2-5「子どもにとっての学級」、Vol.14-6「学級担任と子どもたち」に詳しいレポートがある。



●調査対象の属性)))

調査は、クラス担任と子どもをマッチングしたアンケート調査から構成されている。まず、担任の調査結果からみていくことにする。表1は担任のプロフィールをまとめたものである。今回、調査対象となった地域は、東京・千葉の小学校4・5・6年55クラス、55名の担任（男性22名・女性33名）であり、平均年齢は37.1歳、教職経験の平均年数は13.6年

である。出身大学は4年制の教育系大学が半数、短大と4年制の普通の大学がそれぞれ2割を占めている。そして、「今のクラスを学年が変わっても担任したいか」と尋ねた結果では、「担任したいと思う」割合が全体の4分の3に達し、自分の授業や学級経営に自信を持っている担任像が推察できる。

表1 担任のプロフィール

(1) 性別・担当学年 (％)

男子	女子	4年	5年	6年
40.0 (22)	60.0 (33)	30.9 (17)	32.7 (18)	36.4 (20)

() 内の数値は人数

(2) 年齢 (％)

30歳以下	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳	46歳～50歳	51歳以上	平均
23.6	16.4	21.8	21.8	14.6	1.8	37.1歳

(3) 教職経験 (％)

5年以下	6～10年	11～20年	21～30年	平均
16.7	25.9	33.3	24.1	13.6年

(4) 出身大学 (％)

短大	4年制の教育系大学	4年制の普通の大学	その他
21.8	49.1	21.8	7.3

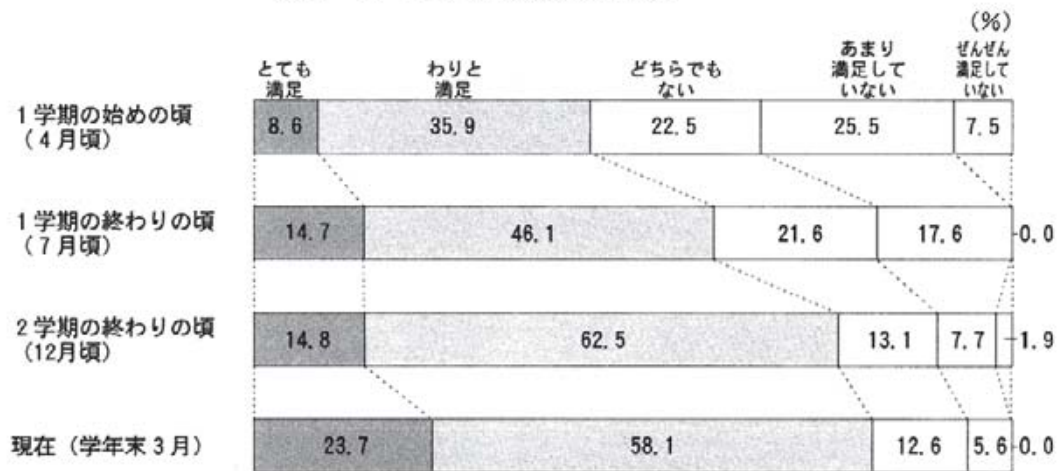
(5) 今のクラスを引き続き担任したいか (％)

担任したいと思う	あまり担任したくない	どちらともいえない
73.4	14.1	12.5

さらに、担任している学級について具体的に担任の満足感や学級経営を尋ねたものが図1、表2・3である。図1は、1学期の始めの頃（4月頃）、1学期の終わりの頃（7月頃）、2学期の終わりの頃（12月頃）、現在（調査時点の3月）の時期について、担任の「クラスへの満足感の変化」を追ったものである。まず、1学期始めの頃は「とても満足」9%、「わりと満足」を含めると、ほぼ5割の担任が自分の学級に満足しているものの、「ぜんぜん満足していない」8%、「あまり満足していない」を合わせると、自分のク

ラスに満足していない担任も約3割いることがわかる。そして、1学期の終わりの頃は「とても・わりと満足している」担任が6割を超え、学期が進むにつれ担任のクラスへの満足感が高くなり、学年の終わりの頃（3月）になると、約8割の担任が自分のクラスに満足感を持っている。担任となった4月のはじめから、担任は教師としての指導力を発揮し学級作りに力を入れ、担任を中心にクラスを居心地よい集団にしようとする努力をしていることが感じられる。

図1 クラスへの満足感の変化



では、具体的にどのようなクラス運営をしているのだろうか。表2によれば、「クラスの中に子どもたちの作品をたくさん展示」し、「係からのお知らせや活動内容をみんなに知らせるための掲示」や「生き物を飼ったり」「席替えをしたり」と教室の中で担任と子どもたち、子どもどうしの関係を作っている様

子がわかる。

表3は、クラスの雰囲気担任が自己評価した結果であるが、平均を60点とすると、70点以上と評価する担任は85%に達し、教師自身は学級経営も比較的うまくいき、自分のクラスの雰囲気は平均以上と自信を持っている様子がみられる。

表2 担任のクラス運営

	(%)
1. 子どもたちの作品をたくさん掲示している	90.5
2. 係からのお知らせや活動内容などの掲示物が多い	84.5
3. 教室に生き物を飼っている	61.9
4. 席替えは学期に何回もやる	53.7
5. クラスのきまりがたくさんある	14.8
6. クラスの歌がある	11.9
7. クラスの旗がある	5.8

「はい」の割合

表3 担任によるクラス評価

(普通のクラスを60点とすると、あなたのクラスの雰囲気は何点ですか)

(%)

100点	90点	80点	70点	60点	50点	40点	30点以下
1.8	21.9	37.3	24.2	13.0	0.0	1.8	0.0
85.2				1.8			

表4は子どものプロフィールである。サンプル数は1,766名。子どもたちの得意な教科は「体育」「図工」「音楽」、一方、苦手な教科は「道徳」「社会」「家庭」である。成績の自己評価では上位、下位ともほぼ1割存在している。自己像では「仲よしの友だちが多い」「スポーツが得意」「活発である」「苦し

いこともがまんでできる」の項目について、「とても・わりとそう」思う子が5割を超えている。学校の楽しさでは、「とても楽しみ」27%、「わりと」を合わせると6割の子どもたちが、学校生活に充足感を持っている様子がうかがえる。

表4 子どものプロフィール

(1) サンプル数		(%)				
男子	女子	4年	5年	6年	合計	
49.7 (875)	50.3 (884)	32.0 (566)	32.8 (580)	35.2 (620)	100.0 (1,766)	

性別7名無記入 () 内の数値は人数

(2) 得意な教科									(%)
国語	算数	社会	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	
7.5	10.3	5.6	6.0	12.4	17.8	5.9	32.4	2.1	

(3) 成績		(%)				
		上	中の上	中	中の下	下
全体		10.8	20.4	42.7	17.4	8.7
性別	男子	14.2	21.0	39.4	16.0	9.4
	女子	7.4	19.9	46.1	18.8	7.8

(4) 自分のタイプ

(%)

	とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 仲よしの友だちが多い	29.1	49.4	18.4	3.1
2. スポーツが得意	23.6	27.1	34.6	14.7
3. 活発である	21.2	31.0	37.0	10.8
4. 他のクラスの子と遊ぶことが多い	17.6	26.6	41.1	14.7
5. 苦しいこともがまんできる	15.4	46.1	31.5	7.0
6. 忘れ物をしない	12.7	37.1	38.5	11.7
7. きまりを守る	8.5	40.8	41.3	9.4
8. 勉強が得意	8.1	27.1	47.4	17.4
9. クラスのみんなから人気がある	5.5	19.4	52.2	22.9

(5) 学校の楽しさ

(%)

		とても 楽しみ	わりと 楽しみ	少し 楽しみ	あまり 楽しみでない	ぜんぜん 楽しみでない
全 体		26.5	34.5	22.4	10.8	5.8
性 別	男 子	21.7	35.5	23.5	11.2	8.1
	女 子	31.1	33.8	21.1	10.5	3.5

●担任と子どもたち)))

学級を構成しているのは、担任と子どもたちである。そこで、クラスの様子を担任と子どもたちとの関係の実態からみていくことにする。

表5は、担任と接触する具体的な場面について、どのくらいあるか尋ねたものである。子どもたちは、「先生の方からあいさつしてくれたこと」「がんばったね」と言われてうれしかったこと」「先生からほめられたこと」などのプラスの体験を持っているものの、「厳しく注意されたこと」「先生から傷つくようなことを言われたこと」「先生から冷たく無視されたこと」など、ネガティブな体験を持つ子どもも2割弱いる。全体には、担任との接

触が希薄なように思える。

表6は担任に抱く教師像である。「とてもそう」「わりとそう」に着目してみると、「家で勉強したノートに赤ペンを入れてくれる」「何かを決めるとき、話し合いを大切にすする」「給食のとき、いろいろな話をしてくれる」「勉強を熱心に教えてくれる」「間違えたときは、素直にあやまる」「心配ごとは一緒に考えてくれる」と子どもたちのことを大切にし、勉強を熱心に教えてくれるイメージを抱いている。一方、「掃除や係の仕事をさぼると厳しく叱る」「忘れ物をすると厳しく叱る」など、厳しい教師イメージも合わせ持っているようである。

表5 先生からしてもらった(された)こと

(%)

	しょっちゅうある	わりとある	ときどきある	今までに1~2回ある	ぜんぜんない
1. 先生の方からあいさつしてくれたこと	16.7	31.4	29.9	14.5	7.5
	48.1				
2. 「がんばったね」と言われてうれしかったこと	9.6	29.2	32.7	17.5	11.0
	38.8				
3. 先生からほめられたこと	5.1	26.7	50.8	13.3	4.1
	31.8				
4. 困っていることを相談にのってもらったこと	5.0	13.9	20.6	21.7	38.8
	18.9				
* 5. 厳しく注意されたこと	10.0	11.8	19.2	30.4	28.6
	21.8				
* 6. やりたくない係の仕事をさせられたこと	6.6	7.5	15.3	19.7	50.9
	14.1				
* 7. 先生から傷つくようなことを言われたこと	5.7	6.9	12.0	20.8	54.6
	12.6				
* 8. 先生から冷たく無視されたこと	5.7	4.3	8.6	14.3	67.1
	10.0				

*はネガティブな項目

そうした教師との関係を子どもがどのように評価しているのかをみてみよう。表7によれば、「今の担任になってよかったか」、すなわち担任への満足感を尋ねると、「とてもよ

かった」39%、「わりと」を合わせると67%の子どもたちが、今の担任に満足している様子がうかがえる。性別では、男子に比べ女子の方が満足感が高い。

表6 担任イメージ

(%)

	とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 家で勉強したノートに赤ペンを入れてくれる	42.0	31.0	19.5	7.5
2. 何かを決めるとき、話し合いを大切にしている	30.6	51.3	14.7	3.4
3. 給食のとき、いろいろな話をしてくれる	24.3	30.3	30.9	14.5
4. 勉強を熱心に教えてくれる	23.6	52.6	19.0	4.8
5. 間違えたときは、素直にあやまる	21.6	50.3	22.6	5.5
6. 心配ごとは一緒に考えてくれる	10.5	42.5	36.8	10.2
7. 休み時間、外で遊んでくれる	7.8	18.7	35.9	37.6
* 8. 掃除や係の仕事をさぼると厳しく叱る	21.3	41.6	32.0	5.1
* 9. 忘れ物をすると厳しく叱る	12.9	27.8	48.1	11.2
* 10. 遅刻や時間に厳しい	11.1	22.3	47.2	19.4

*はネガティブな項目

表7 今の担任になってよかったか（担任への満足度）

(%)

		とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまりよく なかった	ぜんぜん よくなかった
全体		39.0	27.5	18.1	9.0	6.4
		66.5				
性別	男子	34.0	27.2	19.2	10.6	9.0
	女子	43.7	27.9	17.1	7.4	3.9
		71.6				

●クラスの友だち)))

次に、学級を構成しているもう一つの要素、友だちとの関係から学級の様子をみてみよう。

表8は学校での生活の様子を示した。表によると、「休み時間や放課後、友だちと遊び」、

表8 学校生活の様子

(%)

	とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 休み時間、外で遊ぶ	34.6	34.5	25.0	5.9
2. 放課後、友だちと遊ぶ	27.7	30.4	28.9	13.0
3. 朝、友だちと「おはよう」と声をかけ合う	24.1	48.1	23.1	4.7
4. 給食のおかわりをする	18.2	25.7	34.9	21.2
5. 学校の勉強が楽しい	17.1	40.4	31.4	11.1
6. 係活動をよくする	16.6	47.3	31.2	4.9
7. 掃除や当番の仕事をしっかりする	14.4	52.5	30.3	2.8
8. 授業中、先生や友だちの話をよく聞いている	13.0	58.4	26.1	2.5
9. 授業中、よく発言する	11.2	26.0	49.8	13.0
10. 授業中、おしゃべりをする	10.6	42.8	39.6	7.0
11. 学級会で話し合いをするとき、自分の意見を言う	10.2	23.7	48.1	18.0
12. 行事の時など、クラスの代表に立候補する	8.5	16.4	37.2	37.9
13. 休み時間に先生とおしゃべりをする	5.8	22.6	45.3	26.3
14. 先生からよくほめられる	3.0	22.2	61.0	13.8
*15. 先生からよく叱られる	7.9	21.0	55.4	15.7
*16. 仲間はずれにされたり、嫌なことを言われたりする	5.5	15.7	41.8	37.0

*はネガティブな項目

「朝、友だちと『おはよう』と声をかけ合い」、「係活動や掃除をよく行い」、「学校の勉強が楽しい」と感じている子どもが過半数を超え、なかなか充実した学校生活を送っているようである。

さて、クラスの仲間はどんな雰囲気を持っているのだろうか。表9はクラスの友だちをめぐるクラスの雰囲気を尋ねたものである。「先生に『静かにしなさい』と注意されたら、すぐ静かになる」「休み時間、先生のまわり

にすぐ子どもたちが集まる」「係の仕事をしっかりする子が多い」と、「とても・わりとそう思う」と答えた割合は過半数を超え、担任を中心に学級が動いている様子がわかる。逆に、「授業中、隣や後ろの子とむだ話をする子が多い」「昼休み、自分の好きな子だけで遊ぶ子が多い」「休み時間、教室でぶらぶらしている子が多い」「失敗すると、『エー』と言ったり、笑ったりする子が多いので発表しにくい」など、子どもどうしの関係はうま

表9 クラスの雰囲気

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 先生に「静かにしなさい」と注意されたら、すぐ静かになる	17.4	40.7	17.1	18.8	6.0
	58.1				
2. 休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる	21.4	35.2	14.8	16.8	11.8
	56.6				
3. 係の仕事をしっかりする子が多い	13.1	39.2	29.3	15.5	2.9
	52.3				
* 4. 授業中、隣や後ろの子とむだ話をする子が多い	21.7	49.4	14.6	12.0	2.3
	71.1				
* 5. 昼休み、自分の好きな子だけで遊ぶ子が多い	24.5	34.4	20.7	13.5	6.9
	58.9				
* 6. 休み時間、教室でぶらぶらしている子が多い	15.9	39.0	19.9	19.3	5.9
	54.9				
* 7. 失敗すると、「エー」と言ったり、笑ったりする子が多いので発表しにくい	16.8	29.6	22.4	18.5	12.7
	46.4				

*はネガティブな項目

くっていない様子もみられる。

こうしたクラスの雰囲気は、クラスを構成している子どもたちにより大きく変化することが考えられる。そこで、クラスを構成している子どもたちで、特にクラスの雰囲気に影響を与えるような子がいるかどうか尋ねてみた。その結果が表10である。「今のクラスになって、ほとんど話したことのない子」が「1人以上いる」割合は37%、「一緒に遊んだことのない子」が「1人以上いる」割合は62

%、さらに、「女の子や弱い子をいじめる子」「ボスみたいな子」「先生の前だけ、よい子のふりをする子」「すぐ暴力をふるう子」「すぐにいばったり、自慢したりする子」「人の悪口をよく言う子」などもかなり存在しているようであり、子どもたちどうしの人間関係がうまく作れない様子もうかがえる。

表10 クラスにいる特徴のある子

(%)

	いない	1人 いる	2～3人 いる	わりと いる	たくさん いる
1. 今のクラスになって、ほとんど話したことのない子	63.1	13.0	15.8	5.8	2.3
2. 一緒に遊んだことのない子	38.0	6.3	20.8	24.8	10.1
3. 女の子や弱い子をいじめる子	36.3	16.4	27.3	13.7	6.3
4. ボスみたいな子	35.1	31.1	23.8	5.5	4.5
5. 先生の前だけ、よい子のふりをする子	25.2	15.6	29.0	20.6	9.6
6. すぐ、暴力をふるう子	20.2	20.8	35.7	15.7	7.6
7. すぐにいばったり、自慢したりする子	16.7	24.1	37.6	15.5	6.1
8. 人の悪口をよく言う子	14.0	14.7	33.4	25.9	12.0

そうしたクラスの中で子どもたちは、人間関係をどう作っているのだろうか。表11によれば、「休み時間、一緒に遊ぶ友だち」「忘れ物をしたとき、借りたり貸したりする友だ

ち」「安心して何でも言い合える友だち」が「1人以上いる」割合は9割を超え、個人的にはクラスの中に親しい友だちを「1人は持っている」生活をしているようだ。

表11 クラスの友だち

(%)

	いない	1人 いる	2～3人 いる	わりと いる	たくさん いる
1. しょっちゅう電話をかける友だち	35.5	24.4	24.6	9.7	5.8
2. 学校で、トイレに一緒に行ったりする友だち	30.7	15.8	32.9	12.6	8.0
3. 一緒に宿題をしたり、勉強をしたりする友だち	30.7	15.4	32.8	15.6	5.5
4. あこがれている（好きな）友だち	27.3	20.1	27.8	15.4	9.4
5. よくないことをしたとき、注意してくれる友だち	15.5	15.3	39.0	23.0	7.2
6. 困ったとき、相談にのってくれる友だち	14.1	20.5	39.1	18.2	8.1
7. うれしいことがあったとき、一緒に喜んでくれる友だち	12.6	17.0	33.9	25.5	11.0
8. 安心して何でも言い合える友だち	9.6	15.2	38.7	23.5	13.0
9. 忘れ物をしたとき、借りたり貸したりする友だち	7.6	11.3	36.6	30.6	13.9
10. 休み時間、一緒に遊ぶ友だち	2.0	4.3	22.1	33.4	38.2

次に、クラスの友だちとどんな体験を持っているのかを示したものが表12である。「放課後や休みの日、友だちと一緒に遊び」、「友だちに電話をしたり」、「友だちに年賀状を書

いたり」、「友だちの家族に『おはよう』などのあいさつをする」などの体験を持っている。

表12 今のクラスの友だちとの体験

(%)

	何回もある	2～3回ある	1回ある	ぜんぜんない
1. 休みの日に、友だちと一緒に遊ぶ	68.2	21.1	4.6	6.1
2. 友だちに電話をかける	66.6	23.9	4.5	5.0
3. 友だちに年賀状や夏休み中に手紙を出す	65.5	20.4	5.3	8.8
4. 友だちの家族に「おはよう」などのあいさつをする	58.9	23.6	6.4	11.1
5. 放課後、一緒に遊ぶ	58.3	22.6	6.6	12.5
6. 放課後、友だちの家に行って遊ぶ	54.3	17.2	6.2	22.3
7. 友だちにマンガなどを貸したり借りたりする	31.4	25.0	11.0	32.6
8. 休みの日に、友だちと電車やバスで遠出をする	18.0	28.5	14.6	38.9

そして、表13によれば、このようなクラスを「笑い声の多い」「楽しい」「よく遊ぶ」「先生と仲のよい」クラスとイメージしている。そして、クラス評価をすると、表14に示したように、平均点を中心にみると、70点以上とする子が72%、50点以下が20%である。この結果は、教師が自分のクラスの雰囲気や自己評価した結果（表3）と、かなりの差がみられる。

このような学級への満足感を尋ねたものが表15・16・17である。表15「今のクラスは好きか」と尋ねた結果では、「とても好き」38%、「わりと好き」を合わせると、7割が自分のクラスが好きだと答えている。さらに、表16では、「学年が変わっても今のままのクラスがよいか」と尋ねたところ、「とても・わりとそう思う」と答えた割合は6割。次に、表17「今のクラスになってよかったか」と尋

表13 クラスイメージ

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 笑い声の多いクラス	58.2	30.6	7.0	2.9	1.3
2. 楽しいクラス	56.9	31.3	6.4	3.6	1.8
3. よく遊ぶクラス	42.5	39.9	11.5	4.7	1.4
4. 先生と仲のよいクラス	33.6	31.7	20.2	8.6	5.9
5. よく運動するクラス	28.2	39.7	22.7	7.8	1.6
6. 男女の仲がよいクラス	18.9	25.8	23.5	19.1	12.7
7. まとまりのあるクラス	11.8	26.8	33.8	20.5	7.1
8. 授業中、よく手を挙げるクラス	11.4	36.4	32.7	17.4	2.1
9. よく勉強するクラス	5.9	26.2	42.3	19.3	6.3
10. クラスの約束をよく守るクラス	5.5	25.1	38.9	24.0	6.5

表14 クラス評価

(普通のクラスを60点として)

(%)

100点	90点	80点	70点	60点	50点	40点	30点 以下
9.6	16.5	25.3	20.9	7.5	11.1	5.3	3.8
72.3				20.2			

ねた結果では、「とてもよかった」42%、「わりとよかった」を合わせると7割の子どもたちがクラスへの満足感を持っている。しかし、「あまり・ぜんぜんよくなかった」と思う子どもも1割おり、この子どもたちは1年間を満足できないまま過ごしたことが考えられる。

さらに、学年が変わったらクラスが替わってほしいと思う子どもが2割おり、クラスに満足

できない子どもたちの学校生活が気になる結果である。性別では、女子の方がクラスへの満足感が高い。

今回の調査では、この「今のクラスになってよかったか」という質問項目をキーとし、「学級への満足度」を分析することにした。

表15 今のクラスは好きか

(%)

		とても好き	わりと好き	少し好き	あまり好きでない	ぜんぜん好きでない
全体		38.3	30.5	20.1	8.0	3.1
性別	男子	34.4	31.8	21.8	8.8	3.2
	女子	42.2	29.4	18.3	7.1	3.0

表16 学年が変わっても今のままのクラスがよいか

(%)

		とてもそう思う	わりとそう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
全体		35.5	23.2	21.5	12.9	6.9
性別	男子	32.0	24.1	21.6	14.6	7.7
	女子	39.1	22.4	21.2	11.2	6.1

表17 今のクラスになってよかったか（学級への満足度）

(%)

		とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
全体		41.8	29.4	18.6	7.1	3.1
		71.2				
性別	男子	37.3	33.0	18.9	7.5	3.3
	女子	46.2	25.8	18.4	6.6	3.0
		72.0				



学級にはそれぞれ「個性」があるので、ここからは個々のクラスの様子を事例をあげてみていくことにする。そこで、今回調査に協力していただいた55名の担任とクラスの子ど

もたちをクラス別に集計し、「今のクラスになってよかったか」の項目を用い、子どもたちの学級への満足感を中心に、個々のクラスの実態を明らかにしていきたい。

●学級への満足度)))

表18は、子どもたちに「今のクラスになってよかったか」(表17)と尋ねた結果の「とてもよかった」「わりとよかった」を合わせた数値を「学級への満足度」の尺度とし、数値の高い順に一覧表にならべたものである。担任への満足度は「今の担任になってよかったか」の項目(表7)の「とてもよかった」「わりとよかった」を合わせた数値を用いた。順位は今回調査対象となった55クラスの中で「学級への満足度」が最も高いクラスを1位とした。したがって一番最後の55位は、「学級への満足度」が最も低いクラスを示している。

では、一覧表の数値を追ってみていくことにする。表中順位に○印がついているのは持ち上がり学級を示している。表の一番上、1位のクラスは「学級への満足度」が100%で、クラスの全員が「今のクラスになってよかった」と満足している様子がうかがえる。カッコ内の数値は「とてもよかった」の割合を示しており、クラスの4人に3人は、「とてもよかった」と自分のクラスに高い満足感を示している。このクラスは6年生で、調査対象となったクラスの数人は20名である。そして、「担任への満足度」すなわち「今の担任に

なってよかったか」と尋ねた結果、「とてもよかった」「わりとよかった」と答えた割合は95%、カッコ内の数値は「とてもよかった」の割合を示しているので、クラスの9割の子どもたちが「担任」に満足し、高い支持をしていることがわかる。「学級への満足度」と「担任への満足度」の差は5%。このクラスの担任についてみていくと、30代後半の女性の担任で、教職経験が16年、出身大学は短大。担任自身の「クラスへの満足度の変化」をみると、4月から調査時期の3月まで、◎印「とても満足している」と評価しており、担任のクラスの自己採点も90点と高い。このクラスは持ち上がり学級で、担任と子どもたちはお互いに満足感を持ち、子どもたちはクラスにも満足し、「学級への満足度」が高い学校生活をしていることがうかがえる。

次に、2位のクラスをみてみよう。このクラスは5年生、クラス人数は28人、子どもたちの「学級への満足度」は96%、「担任への満足度」96%と、「学級への満足度」も「担任への満足度」も同様に高い。担任は5年生ではじめて担任となった40代後半の男性教師で、教職経験20年と学校内では中堅からベテランとみられるキャリアである。出身大学は普通の4年制大学を卒業している。担任の「クラスへの満足度の変化」をみると、4月の学期始めは×印で「あまり満足していなかった」クラスであったが、5年生が終わる頃になると「わりと満足した」(○印)クラスへと変化している様子がわかる。そして調査時期にはクラスの自己採点は80点と高く、1年間で担任も子どもたちも互いに満足した学校生活に変化させてきた努力がうかがえる。このクラスの担任の調査票には、学級運営について「伸び伸びと自由に意見が言えるように」と書かれている。

その他、表からはいろいろなタイプの学級がみられるので、1、2拾い上げてみていきたい。

表の中ほど、23位のクラスをみてみよう。持ち上がり学級の4年生で、クラス的人数が

36人、このクラスの「学級への満足度」は78%と今回の調査の平均を超えているが、「担任への満足度」は低く32%、今の担任になって「とてもよかった」と答えた子は36人中わずか3人にすぎない。この先生は40代後半の男性教師で、教職経験22年、教育系の4年制大学を卒業したベテランの教師である。しかし、先生からみた「クラスへの満足度」によれば、1年を通して満足のいくクラスではなかったようだ。そして自分のクラスを自己評価した点数は70点である。この先生のクラスは「活気があり意欲的だが、落ち着きがなくおしゃべりな子が多い。忘れ物が多かったり、仲間はずれがあったりしたが、話し合いや新聞作りなどを通して、よりよい学級にしている」という意識が高まり、少しずつよくなっている。さらに、「お互いに存在と価値を認め合い、全体として調和のとれたクラスにしたいが、偏見や毛嫌いが子どもたちの中に残っている。親の前でいい子でありすぎ、内部分裂を起こして、学校でホンネの部分が発露させているタイプの子がおり、指導に苦労している」と調査票の自由記述の部分に悩みが書かれている。

表の順位を追って37位のクラスをみてみよう。5年生でクラス人数は33名、子どもたちの「学級への満足度」は67%と満足度はやや低いものの、「担任への満足度」は91%と担任には高い支持をしている。この担任は男性で、30代後半、教職経験は14年と中堅の教師であり、教育系の4年制大学出身である。担任の「クラスへの満足度の変化」をみると、担任になった4月初めの「クラスへの満足度」は「どちらでもない」と答えていたが、その後1学期の終わりの頃は「あまり満足していない」、2学期の終わりの頃は「ぜんぜん満足していない」、調査時期の3月になり「あまり満足していない」と1年経っても担任としてクラスに満足できない状況で、クラスの自己採点も60点である。担任として子どもたちから「とてもよかった」と高い支持を受けながら、担任も子どもたちもクラスへは

満足できない学校生活をしている状況がわかる。

同様に表の順位を追って最下位の55位をみてみよう。このクラスは5年生でクラス的人数は30名、子どもたちの「学級への満足度」は13%、すなわちクラスに満足している子は30名中わずか4人であり、クラスの8割以上がクラスに何らかの不満を持っている状況がわかる。そして「担任への満足度」は37%、「学級への満足度」と「担任への満足度」の差が23%と開いており、学級への満足度は低いが、担任へは4割弱の子どもたちが満足感を持って生活している様子がうかがえる。このクラスの担任は女性の30代後半、教職経験16年の短大出身で、ほぼ1位の先生と同じ経歴を持つ教師である。「担任の学級への満足度の変化」をみると、4月の初め頃は「あまり満足していなかった」学級であったが、5

年生が終わる頃には「わりと満足している」と評価している。さらにクラスの自己採点でも80点と高い評価をしており、子どもたちの評価との間に大きな隔たりがみられ、気になる結果である。表には省略したが、この担任は学年が変わっても引き続き担任したいと希望しており、6年生になったとき、子どもたちの「学級への満足度」や「担任への満足度」が高まることを期待したい。

小学校教育では、子どもたちは必ずどこかの学級に所属しなければならず、担任を選ぶことはできない。そして、表18の一覧表に示したように、子どもたちの「学級への満足度」は全員「満足している」という100%から、13%まで大きな開きをみせている。どうして、このような差が生じるのであろうか。

表18 学級への満足度一覧表

順位	子ども					教師									
	学年	クラス人数 (人)	学級への満足度 (%) (A)	担任への満足度 (%) (B)	満足度の差 学級-担任 (A)-(B)	性別	年齢	経験年数 (年)	出身大学	今のクラスの満足度				クラス評価 普通を60点	
										1学期 4月頃	1学期 7月頃	2学期 12月頃	現在 3月		
①	6	20	100.0 (75.0)	95.0 (90.0)	5.0	女	30代後半	16	短大	◎	◎	◎	◎	90	
2	5	28	96.4 (85.7)	96.4 (85.7)	0.0	男	40代後半	20	普通	×	△	○	○	80	
③	6	34	91.2 (79.4)	76.5 (50.0)	14.7	女	40代前半	21	短大	○	○	○	○	80	
④	6	32	90.7 (43.8)	38.7 (12.9)	52.0	女	40代後半	26	教育	---	---	---	△	70	
⑤	4	25	88.0 (60.0)	84.0 (60.0)	4.0	女	40代後半	25	短大	△	○	○	○	70	
6	4	33	87.8 (63.6)	97.0 (69.7)	-9.2	男	30代後半	7	短大	○	○	○	○	60	
⑦	6	32	87.5 (78.1)	90.6 (87.5)	-3.1	女	30代後半	16	短大	○	○	○	◎	90	
8	6	32	87.5 (59.4)	87.6 (56.3)	-0.1	男	30代前半	6	教育	○	◎	◎	◎	90	
9	5	31	87.1 (67.7)	96.8 (64.5)	-9.7	男	30代前半	6	教育	○	○	○	○	80	
10	4	36	86.1 (63.9)	88.9 (83.3)	-2.8	男	30代前半	7	教育	△	○	◎	◎	90	
11	4	35	85.7 (60.0)	80.0 (65.7)	5.7	男	40代前半	17	普通	○	◎	◎	◎	80	
12	6	32	84.4 (62.5)	37.6 (18.8)	46.8	女	20代後半	3	教育	×	○	○	○	70	
13	6	32	84.4 (53.1)	80.7 (48.4)	3.7	女	20代後半	3	教育	◎	○	○	○	80	
⑭	4	32	84.4 (46.9)	100.0 (84.4)	-15.6	女	40代後半	26	教育	△	○	○	○	90	
⑮	6	32	84.4 (40.6)	81.3 (46.9)	3.1	男	40代前半	19	普通	○	○	○	○	90	
16	4	37	83.8 (56.8)	81.0 (43.2)	2.8	女	40代後半	25	教育	---	---	---	◎	90	
17	4	36	83.3 (44.4)	63.9 (22.2)	19.4	女	40代後半	9	短大	○	○	○	○	70	
18	6	34	82.4 (61.8)	85.3 (58.8)	-2.9	男	30代前半	4	普通	×	×	○	◎	80	
19	5	27	81.4 (44.4)	85.2 (63.0)	-3.8	男	30代前半	9	教育	◎	◎	◎	◎	90	
⑳	6	20	80.0 (65.0)	85.0 (50.0)	-5.0	男	30代前半	10	教育	○	○	○	○	80	
㉑	4	38	79.0 (39.5)	89.5 (63.2)	-10.5	女	20代前半	1	教育	○	△	○	○	80	
㉒	4	33	78.8 (48.5)	67.5 (33.3)	11.3	男	40代後半	21	教育	◎	◎	×	◎	90	
㉓	4	36	77.8 (36.1)	31.5 (8.6)	46.3	男	40代後半	22	教育	×	×	×	×	70	
24	5	30	76.7 (40.0)	73.3 (43.3)	3.4	女	20代前半	2	普通	×	△	○	◎	90	
㉔	6	31	74.2 (61.3)	67.8 (32.3)	6.4	男	20代後半	2	---	◎	◎	◎	◎	100	
26	4	31	74.2 (48.4)	45.2 (25.8)	29.0	男	40代前半	17	普通	×	×	×	○	40	
㉖	6	30	73.3 (43.3)	50.0 (23.3)	23.3	男	30代後半	16	普通	○	○	△	△	60	
28	5	33	72.7 (39.4)	57.6 (30.3)	15.1	女	20代後半	3	教育	×	×	○	○	80	

(次ページへ)

順位	子 ども					教 師								
	学年	クラス 人数 (人)	学級への 満 足 度 (%) (A)	担任への 満 足 度 (%) (B)	満足度の差 学級-担任 (A)-(B)	性別	年齢	経験 年数 (年)	出身 大学	今のクラスの満足度				クラス 評 価 普通を 60点
										1学期 4月頃	1学期 7月頃	2学期 12月頃	現在 3月	
29	5	32	71.9 (31.3)	50.0 (12.5)	21.9	女	40代前半	--	--	△	○	○	△	80
30	5	39	71.8 (35.9)	46.2 (23.1)	25.6	女	30代後半	15	普通	×	○	○	○	80
31	5	39	71.8 (23.1)	71.8 (35.9)	0.0	女	40代前半	23	短大	○	○	◎	◎	90
32	4	21	71.5 (28.6)	71.5 (42.9)	0.0	男	30代前半	8	教育	○	○	○	○	70
33	5	27	70.4 (51.9)	74.1 (55.6)	- 3.7	女	20代後半	3	普通	△	○	○	○	80
34	4	37	70.2 (48.6)	77.8 (52.8)	- 7.6	女	30代前半	12	教育	△	△	○	○	80
35	6	31	67.8 (32.3)	32.3 (12.9)	35.5	女	40代後半	24	--	△	○	○	○	80
36	6	34	67.6 (23.5)	44.1 (17.6)	23.5	男	30代前半	9	短大	×	△	△	○	90
37	5	33	66.6 (42.4)	90.9 (57.6)	-24.3	男	30代後半	14	教育	△	×	×	×	60
38	6	30	66.6 (33.3)	46.6 (23.3)	20.0	女	30代後半	17	教育	○	○	○	○	70
39	5	29	65.5 (34.5)	56.7 (20.0)	8.8	女	40代前半	18	教育	×	△	×	×	60
40	4	34	64.7 (38.2)	55.9 (29.4)	8.8	女	50代後半	22	--	×	×	△	△	60
41	6	33	63.6 (30.3)	33.3 (9.1)	30.3	女	30代前半	9	教育	×	×	○	○	70
42	4	30	63.4 (26.7)	43.3 (23.3)	20.1	女	20代後半	7	短大	×	△	○	○	70
43	5	29	62.1 (20.7)	51.7 (17.2)	10.4	女	30代後半	13	普通	○	◎	◎	◎	80
44	4	31	61.3 (32.3)	71.0 (32.3)	- 9.7	女	40代前半	20	教育	△	○	○	○	70
45	6	31	61.3 (25.8)	64.5 (29.0)	- 3.2	女	20代後半	3	教育	△	○	○	△	60
46	5	37	59.4 (18.9)	70.2 (29.7)	-10.8	男	30代前半	7	教育	×	△	○	○	80
47	6	33	57.5 (24.2)	81.8 (27.3)	-24.3	女	40代後半	26	短大	○	×	△	○	80
48	5	38	55.3 (21.1)	55.2 (18.4)	0.1	男	40代前半	19	教育	○	○	○	○	60
49	4	38	55.2 (36.8)	47.1 (28.9)	8.1	女	40代前半	21	短大	○	○	○	○	80
50	5	38	50.0 (23.7)	46.2 (15.4)	3.8	男	40代前半	13	普通	×	△	○	○	80
51	6	31	49.6 (22.6)	93.5 (38.7)	-43.9	女	40代後半	22	教育	×	×	△	○	70
52	5	31	45.1 (16.1)	67.8 (45.2)	-22.7	男	30代前半	8	教育	△	○	○	△	70
53	5	26	34.6 (15.4)	77.0 (38.5)	-42.4	女	30代前半	8	普通	○	○	△	○	70
54	6	33	24.2 (12.1)	25.0 (3.1)	- 0.8	女	40代前半	20	教育	△	△	△	△	70
55	5	30	13.4 (6.7)	36.6 (23.3)	-23.2	女	30代後半	16	短大	×	△	○	○	80
平 均			71.2 (41.8)	66.5 (39.0)		男 22名 女 33名	平均年齢37.1歳 教職経験13.6年							76.7

学級への満足度・担任への満足度は「とても」+「わりと」よかった割合 ()内は「とても」よかった割合
 出身大学 教育…4年制教育系大学 普通…4年制普通大学
 ◎ とても満足している ○ わりと満足している △ どちらでもない × あまり・ぜんぜん満足していない
 順位の○数字は持ち上がり担任のクラス

●学級への満足度の差)))

表18をもう一度みてみよう。今回の「学級への満足度」の平均値は71%、「担任への満足度」は67%、担任による「クラスの自己採点」の平均は、77点である。そこで、「学級への満足度」に子どもの学年・性別・成績、教師の性別・年齢・教職経験などがどのようにかかわっているのか、その実態をみてみることにしよう。

表19は、表18の一覧表から学年別に示したものである。そして、表20・21は「学級への満足度」と「担任への満足度」の学年別の数値をまとめたものである。「学級への満足度」は4年生が76%と最も高く、5年生で64

%となっている。「担任への満足度」をみると4年生70%、5年生66%、6年生64%と学年が上がるにしたがって、わずかに満足度が減少する傾向がみられる。

表より学年別の担任のプロフィールをまとめると以下の通りである。

	担任の性別		年齢	教職経験	クラスの 自己採点
	男性	女性			
4年	7人	10人	40.3歳	15.7年	74.1点
5年	8人	10人	34.9歳	11.6年	77.2点
6年	7人	13人	36.3歳	13.6年	78.5点

表19 学級への満足度 × 学年

(1) 4年

順位	子 ども					教 師								
	学年	クラス 人数 (人)	学級への 満足度 (%) (A)	担任への 満足度 (%) (B)	満足度の差 学級-担任 (A)-(B)	性別	年齢	経験 年数 (年)	出身 大学	今のクラスの満足度				クラス 評価 普通を 60点
										1学期 4月頃	1学期 7月頃	2学期 12月頃	現在 3月	
⑤	4	25	88.0 (60.0)	84.0 (60.0)	4.0	女	40代後半	25	短大	△	○	○	○	70
6	4	33	87.8 (63.6)	97.0 (69.7)	- 9.2	男	30代後半	7	短大	○	○	○	○	60
10	4	36	86.1 (63.9)	88.9 (83.3)	- 2.8	男	30代前半	7	教育	△	○	◎	◎	90
11	4	35	85.7 (60.0)	80.0 (65.7)	5.7	男	40代前半	17	普通	○	◎	◎	◎	80
⑭	4	32	84.4 (46.9)	100.0 (84.4)	-15.6	女	40代後半	26	教育	△	○	○	○	90
16	4	37	83.8 (56.8)	81.0 (43.2)	2.8	女	40代後半	25	教育	---	---	---	◎	90
17	4	36	83.3 (44.4)	63.9 (22.2)	19.4	女	40代後半	9	短大	○	○	○	○	70
⑳	4	38	79.0 (39.5)	89.5 (63.2)	-10.5	女	20代前半	1	教育	○	△	○	○	80
㉒	4	33	78.8 (48.5)	67.5 (33.3)	11.3	男	40代後半	21	教育	◎	◎	×	◎	90
㉓	4	36	77.8 (36.1)	31.5 (8.6)	46.3	男	40代後半	22	教育	×	×	×	×	70
26	4	31	74.2 (48.4)	45.2 (25.8)	29.0	男	40代前半	17	普通	×	×	×	○	40
32	4	21	71.5 (28.6)	71.5 (42.9)	0.0	男	30代前半	8	教育	○	○	○	○	70
⑳	4	37	70.2 (48.6)	77.8 (52.8)	- 7.6	女	30代前半	12	教育	△	△	○	○	80
㉑	4	34	64.7 (38.2)	55.9 (29.4)	8.8	女	50代後半	22	---	×	×	△	△	60
42	4	30	63.4 (26.7)	43.3 (23.3)	20.1	女	20代後半	7	短大	×	△	○	○	70
㉔	4	31	61.3 (32.3)	71.0 (32.3)	- 9.7	女	40代前半	20	教育	△	○	○	○	70
㉕	4	38	55.2 (36.8)	47.1 (28.9)	8.1	女	40代前半	21	短大	○	○	○	○	80
平均			76.2 (46.2)	69.7 (45.3)		男 7名	平均年齢40.3歳							74.1

学級への満足度・担任への満足度は「とても」+「わりと」よかった割合
()内は「とても」よかった割合

出身大学 教育…4年制教育系大学
普通…4年制普通大学

順位の○数字は持ち上がり担任のクラス

◎ とても満足している
○ わりと満足している
△ どちらでもない
× あまり・ぜんぜん満足していない

(2) 5年

順位	子ども				教師									
	学年	クラス 人数 (人)	学級への 満足度 (%) (A)	担任への 満足度 (%) (B)	満足度の差 学級-担任 (A)-(B)	性別	年齢	経験 年数 (年)	出身 大学	今のクラスの満足度				クラス 評価 普通を 60点
										1学期 4月頃	1学期 7月頃	2学期 12月頃	現在 3月	
2	5	28	96.4 (85.7)	96.4 (85.7)	0.0	男	40代後半	20	普通	×	△	○	○	80
9	5	31	87.1 (67.7)	96.8 (64.5)	-9.7	男	30代前半	6	教育	○	○	○	○	80
19	5	27	81.4 (44.4)	85.2 (63.0)	-3.8	男	30代前半	9	教育	◎	◎	◎	◎	90
24	5	30	76.7 (40.0)	73.3 (43.3)	3.4	女	20代前半	2	普通	×	△	○	◎	90
28	5	33	72.7 (39.4)	57.6 (30.3)	15.1	女	20代後半	3	教育	×	×	○	○	80
29	5	32	71.9 (31.3)	50.0 (12.5)	21.9	女	40代前半	--	--	△	○	○	△	80
30	5	39	71.8 (35.9)	46.2 (23.1)	25.6	女	30代後半	15	普通	×	○	○	○	80
31	5	39	71.8 (23.1)	71.8 (35.9)	0.0	女	40代前半	23	短大	○	○	◎	◎	90
33	5	27	70.4 (51.9)	74.1 (55.6)	-3.7	女	20代後半	3	普通	△	○	○	○	80
37	5	33	66.6 (42.4)	90.9 (57.6)	-24.3	男	30代後半	14	教育	△	×	×	×	60
39	5	29	65.5 (34.5)	56.7 (20.0)	8.8	女	40代前半	18	教育	×	△	×	×	60
43	5	29	62.1 (20.7)	51.7 (17.2)	10.4	女	30代後半	13	普通	○	◎	◎	◎	80
46	5	37	59.4 (18.9)	70.2 (29.7)	-10.8	男	30代前半	7	教育	×	△	○	○	80
48	5	38	55.3 (21.1)	55.2 (18.4)	0.1	男	40代前半	19	教育	○	○	○	○	60
50	5	38	50.0 (23.7)	46.2 (15.4)	3.8	男	40代前半	13	普通	×	△	○	○	80
52	5	31	45.1 (16.1)	67.8 (45.2)	-22.7	男	30代前半	8	教育	△	○	○	△	70
53	5	26	34.6 (15.4)	77.0 (38.5)	-42.4	女	30代前半	8	普通	○	○	△	○	70
55	5	30	13.4 (6.7)	36.6 (23.3)	-23.2	女	30代後半	16	短大	×	△	○	○	80
平均			64.0 (33.7)	66.0 (36.5)		男 女	8名 10名	平均年齢34.9歳 教職経験11.6年						77.2

学級への満足度・担任への満足度は「とても」+「わりと」よかった割合
()内は「とても」よかった割合

出身大学 教育…4年制教育系大学
普通…4年制普通大学
順位の○数字は持ち上がり担任のクラス

◎ とても満足している
○ わりと満足している
△ どちらでもない
× あまり・ぜんぜん満足していない

(3) 6年

順位	子ども					教師								
	学年	クラス 人数 (人)	学級への 満足度 (%) (A)	担任への 満足度 (%) (B)	満足度の差 学級-担任 (A)-(B)	性別	年齢	経験 年数 (年)	出身 大学	今のクラスの満足度				クラス 評価 普通を 60点
										1学期 4月頃	1学期 7月頃	2学期 12月頃	現在 3月	
①	6	20	100.0 (75.0)	95.0 (90.0)	5.0	女	30代後半	16	短大	◎	◎	◎	◎	90
③	6	34	91.2 (79.4)	76.5 (50.0)	14.7	女	40代前半	21	短大	○	○	○	○	80
④	6	32	90.7 (43.8)	38.7 (12.9)	52.0	女	40代後半	26	教育	---	---	---	△	70
⑦	6	32	87.5 (78.1)	90.6 (87.5)	- 3.1	女	30代後半	16	短大	○	○	○	◎	90
8	6	32	87.5 (59.4)	87.6 (56.3)	- 0.1	男	30代前半	6	教育	○	◎	◎	◎	90
12	6	32	84.4 (62.5)	37.6 (18.8)	46.8	女	20代後半	3	教育	×	○	○	○	70
13	6	32	84.4 (53.1)	80.7 (48.4)	3.7	女	20代後半	3	教育	◎	○	○	○	80
⑮	6	32	84.4 (40.6)	81.3 (46.9)	3.1	男	40代前半	19	普通	○	○	○	○	90
18	6	34	82.4 (61.8)	85.3 (58.8)	- 2.9	男	30代前半	4	普通	×	×	○	◎	80
⑳	6	20	80.0 (65.0)	85.0 (50.0)	- 5.0	男	30代前半	10	教育	○	○	○	○	80
㉕	6	31	74.2 (61.3)	67.8 (32.3)	6.4	男	20代後半	2	--	◎	◎	◎	◎	100
㉗	6	30	73.3 (43.3)	50.0 (23.3)	23.3	男	30代後半	16	普通	○	○	△	△	60
35	6	31	67.8 (32.3)	32.3 (12.9)	35.5	女	40代後半	24	--	△	○	○	○	80
㉙	6	34	67.6 (23.5)	44.1 (17.6)	23.5	男	30代前半	9	短大	×	△	△	○	90
㉚	6	30	66.6 (33.3)	46.6 (23.3)	20.0	女	30代後半	17	教育	○	○	○	○	70
41	6	33	63.6 (30.3)	33.3 (9.1)	30.3	女	30代前半	9	教育	×	×	○	○	70
④⑤	6	31	61.3 (25.8)	64.5 (29.0)	- 3.2	女	20代後半	3	教育	△	○	○	△	60
47	6	33	57.5 (24.2)	81.8 (27.3)	- 24.3	女	40代後半	26	短大	○	×	△	○	80
⑤①	6	31	49.6 (22.6)	93.5 (38.7)	- 43.9	女	40代後半	22	教育	×	×	△	○	70
⑤④	6	33	24.2 (12.1)	25.0 (3.1)	- 0.8	女	40代前半	20	教育	△	△	△	△	70
平均			73.4 (45.5)	64.1 (35.8)		男 7名	平均年齢36.3歳							78.5

学級への満足度・担任への満足度は「とても」+「わりと」よかった割合
()内は「とても」よかった割合

出身大学 教育…4年制教育系大学
普通…4年制普通大学

順位の○数字は持ち上がり担任のクラス

◎ とても満足している
○ わりと満足している
△ どちらでもない
× あまり・ぜんぜん満足していない

表20 学級への満足度 × 学年

(%)

	とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
4 年	46.2	30.0	16.3	5.0	2.5
	76.2				
5 年	33.7	30.3	22.7	9.7	3.6
	64.0				
6 年	45.5	27.9	16.9	6.5	3.2
	73.4				

表21 担任への満足度 × 学年

(%)

	とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
4 年	45.3	24.4	16.6	7.3	6.4
	69.7				
5 年	36.5	29.5	18.8	10.2	5.0
	66.0				
6 年	35.8	28.3	18.7	9.4	7.8
	64.1				

表22・23は成績とのクロスである。「学級への満足度」「担任への満足度」とともに、自分の成績を「中の下・下」と自己評価した子が低い傾向にある。

次に、担任の属性から子どもたちの「学級への満足度」をみてみよう。表24・25は担任の性別と子どもの性別との関係である。子どもの性別でみると、「学級への満足度」が高い、すなわち、今のクラスになって「とてもよかった」とする割合は、男子37%、女子46%と女子の方が高い。「担任への満足度」も同様の傾向にある。教師の性別でみると、「学級への満足度」では担任の性別にかかわらず女子の満足度が高い。一方、「担任への満足度」では、男性の担任に対しては男子の方がやや満足度が高い。しかし女性の担任に対しては、45%の女子が「とてもよかった」と満足しているのに対し、男子は26%と、クラスのほぼ4人に3人は担任に何らかの不満

を持っている様子がわかる。表26・27は担任の年齢との関係である。担任の年齢が若い方が子どもたちの「学級への満足度」を高める傾向がみられる。

しかし、表18に示した1位から55位までの一覧表の中には、上位クラス・下位クラスの群にも、学年・クラスの人数や担任の性別・年齢などさまざま、これら子どもや担任の属性の違いから「学級への満足度」を規定する要因を見つけることはむずかしい。

さらに一覧表から、子どもたちの「学級への満足度」の特徴をみていくと、「学級への満足度」と「担任への満足度」の数値が両方とも高い群、ともに低い群、「学級への満足度」は高いが「担任への満足度」が低い群、「学級への満足度」は低いが「担任への満足度」が高い群の4群がみられる。この分析は、4章で詳しく述べたい。

表22 学級への満足度 × 成績

(%)

	とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
上・中の上	45.9	27.5	16.1	8.3	2.2
中	42.2	32.5	18.6	4.4	2.3
中の下・下	36.7	27.0	21.0	10.0	5.3

表23 担任への満足度 × 成績

(%)

	とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
上・中の上	41.9	28.4	14.5	8.0	7.2
中	39.5	27.2	19.3	8.5	5.5
中の下・下	34.5	27.0	21.0	10.6	6.9

表24 学級への満足度 × 性

(%)

		とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
全体		41.8	29.4	18.6	7.1	3.1
男子		37.3	33.0	18.9	7.5	3.3
女子		46.2	25.8	18.4	6.6	3.0
男性担任	男子	44.0	32.1	17.3	4.9	1.7
	女子	47.6	25.6	16.8	6.3	3.7
				6.6		
女性担任	男子	33.0	33.5	20.0	9.1	4.4
	女子	45.3	25.9	19.5	6.8	2.5
				13.5		

表25 担任への満足度 × 性

(%)

		とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
全体		39.0	27.5	18.1	9.0	6.4
男子		34.0	27.2	19.2	10.6	9.0
女子		43.7	27.9	17.1	7.4	3.9
男性担任	男子	45.8	26.8	14.1	7.2	6.1
	女子	42.8	26.5	18.2	7.7	4.8
				13.3		
女性担任	男子	26.2	27.5	22.6	12.8	10.9
	女子	44.5	28.8	16.3	7.2	3.2
				23.7		

表26 学級への満足度 × 担任の年齢

(%)

	とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
20代	44.4	29.9	14.4	6.7	4.6
30代	42.5	27.6	19.1	6.7	4.1
40代	40.5	30.9	19.2	7.6	1.8
50代	38.2	26.5	29.4	5.9	0.0

表27 担任への満足度 × 担任の年齢

(%)

	とてもよかった	わりとよかった	少しよかった	あまりよくなかった	ぜんぜんよくなかった
20代	38.6	27.2	20.1	8.1	6.0
30代	46.0	24.9	15.3	9.8	4.0
40代	33.4	29.9	19.5	8.8	8.4
50代	29.4	26.5	23.5	5.9	14.7



「学級への満足度」の実態については、2章で詳しくみてきたとおり、高いクラスでは100%、すなわち、子どもたち全員が自分のクラスに満足して生活しているクラスと、低いクラスでは13%と、クラスの大部分の子どもが何らかの不満を持っているクラスというように、「学級への満足度」には大きな開きがみられた。

この「学級への満足度」を高める要因は何なのか。ここでも同様に「今のクラスになっ

てよかったか」の項目をキーに、「学級への満足度」を規定する要因を探っていくことにする。

そこで、表18より「学級への満足度」が85%以上の11クラスを満足度の高い上位群、60%未満の10クラスを満足度の低い下位群として、担任との関係、学校生活、クラスでの様子から、両者の違いを分析し規定要因を探っていきたい。

●担任と子どもの関係)))

表28は、上位群と下位群の担任・子どものプロフィールである。

(1) 上位・下位群の子どもたちをみていくと、上位群のクラスの平均人数は30.7人、下位群は33.5人、「学級への満足度」の平均値は上位群89%、下位群46%、「担任への満足度」は上位群84%、下位群59%、成績の自己評価では上位群では自分の成績を上位と評価する子が35%、下位群では28%である。あえて、学年差をみるならば、上位群には4・6

年生、下位群には5・6年生のクラスが多いといえる。

(2) 担任の属性でみると、年齢・教職経験・出身大学に両群の差はほとんどみられず、クラスの自己採点の平均値が上位群80点、下位群74点とわずかに差がみられる。

(3) 担任の「クラス運営」では、下位群に「教室に生き物を飼っている」、上位群に「クラスのきまりがたくさんある」と答えた割合が高い。

表28 上位群・下位群の子ども・担任のプロフィール

(1) 子ども

	学 年	クラス人数 (平均)	学級への満足度 (%)	担任への満足度 (%)	成 績 (%)
(上位群) (満足度 85%以上)	4年 4クラス	30.7人	89.3% (66.5)	84.3% (65.3)	上位者 34.8%
	5年 2クラス				下位者 24.6%
	6年 5クラス				
(下位群) (満足度 60%未満)	4年 1クラス	33.5人	45.7% (20.3)	59.4% (26.3)	上位者 28.2%
	5年 6クラス				下位者 29.1%
	6年 3クラス				

学級への満足度・担任への満足度は「とても」+「わりと」よかった割合
()内は「とても」よかった割合

(2) 担任

	性別	年齢 (平均)	教職経験 (平均)	出身大学	クラス評価 (平均)	続けて担任希望の有無
(上位群) (満足度 85%以上)	男 6人	38.5歳	15.2年	短大 5人 教育系 4人 普通 2人	80点	したい 4人
	女 5人					したくない 2人 未記入 5人
(下位群) (満足度 60%未満)	男 4人	39.0歳	16.0年	短大 3人 教育系 5人 普通 2人	74点	したい 5人
	女 6人					したくない 1人 未記入 4人

(3) 担任のクラス運営 × 学級への満足度（上位群・下位群） (％)

	上位群 (A)	下位群 (B)	差 (A)－(B)
1. 子どもたちの作品をたくさん掲示している	90.3	88.4	1.9
2. 係からのお知らせや活動内容などの掲示物が多い	82.4	88.4	－ 6.0
3. 教室に生き物を飼っている	34.1	80.7	－46.6
4. 席替えは学期に何回もやる	61.8	48.7	13.1
5. クラスのきまりがたくさんある	19.7	0.0	19.7
6. クラスの歌がある	0.0	11.0	－11.0
7. クラスの旗がある	0.0	0.0	0.0

「はい」の割合

では、担任と子どもたちの接触の様子から子どもたちの「学級への満足度」を規定する要因を探っていこう。表29によると、担任と子どもの接触の様子を「先生の方からあいさつしてくれたこと」が「しょっちゅうある」「わりとある」と答えた子の割合が、「学級への満足度」が85%以上の上位群では55%、60%未満の下位群では41%で、その差が13%である。上位群と下位群の差のある項目をみると、「先生の方からあいさつしてくれたこと」「『がんばったね』と言われてうれしかったこと」「困っていることを相談にのってもらったこと」「先生からほめられたこと」が上位群の子どもたちに多くみられる特徴である。下位群の子どもたちは、「厳しく注意されたこと」「先生から冷たく無視されたこと」と答えているが、ごくわずかである。

次に、そうした担任との接触を持つ子どもたちの担任のイメージをみてみよう。表30を

みていくと、上位群の子どもたちは「何かを決めるとき、話し合いを大切にする」「間違えたときは、素直にあやまる」「勉強を熱心に教えてくれる」「家で勉強したノートに赤ペンを入れてくれる」「心配ごとと一緒に考えてくれる」「遅刻や時間に厳しい」と、個々の子どもたちの気持ちを大切に人間的なふれ合いが感じられ、厳しさも合わせ持つ教師像を抱いている。一方、下位群は、担任に対し「掃除や係の仕事をさぼると厳しく叱る」と、厳しさを強くイメージしている。

そして、表31に示したように、「今の担任になってよかったか」という「担任への満足度」をみると、「学級への満足度」が85%以上の上位群では、「とても・わりとよかった」を合わせて84%の子どもたちが担任に満足している様子が見える。下位群の子どもたちは59%で、逆に、「あまり・ぜんぜんよくなかった」と担任に不満を持つ子の割合が2割を超える。

表29 先生からしてもらった(された)こと × 学級への満足度 (上位群・下位群)

	上位群 (A)		下位群 (B)	差 (A)-(B)
1. 先生の方からあいさつしてくれたこと	54.5	>	41.4	13.1
2. 「がんばったね」と言われてうれしかったこと	47.1	>	32.0	15.1
3. 先生からほめられたこと	37.5	>	31.1	6.4
4. 困っていることを相談にのってもらったこと	23.9	>	17.4	6.5
* 5. 厳しく注意されたこと	19.9	<	20.1	- 0.2
* 6. やりたくない係の仕事をさせられたこと	12.5	>	10.5	2.0
* 7. 先生から傷つくようなことを言われたこと	11.0	>	10.8	0.2
* 8. 先生から冷たく無視されたこと	7.5	<	10.5	- 3.0

「しょっちゅう」+「わりと」ある割合
○は10%以上の差
*はネガティブな項目

子どもたちの「学級への満足度」を高める
要因の1つは、「担任」がどんな先生で、ど

のように接しているかが大きくかかわってい
ると考えられる。

表30 担任イメージ × 学級への満足度（上位群・下位群）

（％）

	上位群 (A)		下位群 (B)	差 (A)-(B)
1. 家で勉強したノートに赤ペンを入れてくれる	71.8	>	61.5	10.3
2. 何かを決めるとき、話し合いを大切にする	98.5	>	79.4	19.1
3. 給食のとき、いろいろな話をしてくれる	67.3	>	52.5	14.8
4. 勉強を熱心に教えてくれる	77.1	>	74.9	2.2
5. 間違えたときは、素直にあやまる	82.2	>	71.3	10.9
6. 心配ごとと一緒に考えてくれる	69.4	>	47.3	22.1
7. 休み時間、外で遊んでくれる	41.5	>	25.1	16.4
* 8. 掃除や係の仕事をさぼると厳しく叱る	57.5	<	64.5	- 7.0
* 9. 忘れ物をすると厳しく叱る	36.1	>	33.9	2.2
* 10. 遅刻や時間に厳しい	35.8	>	21.3	14.5

「とても」+「わりと」その割合
○は10%以上の差
*はネガティブな項目

表31 今の担任になってよかったか × 学級への満足度
（担任への満足度） （上位群・下位群）

（％）

	とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまりよく なかった	ぜんぜん よくなかった
全体	39.0	27.5	18.1	9.0	6.4
	66.5				
上位群	65.3	19.0	8.0	5.6	2.1
	84.3				
下位群	26.3	33.1	20.0	11.0	9.6
	59.4				

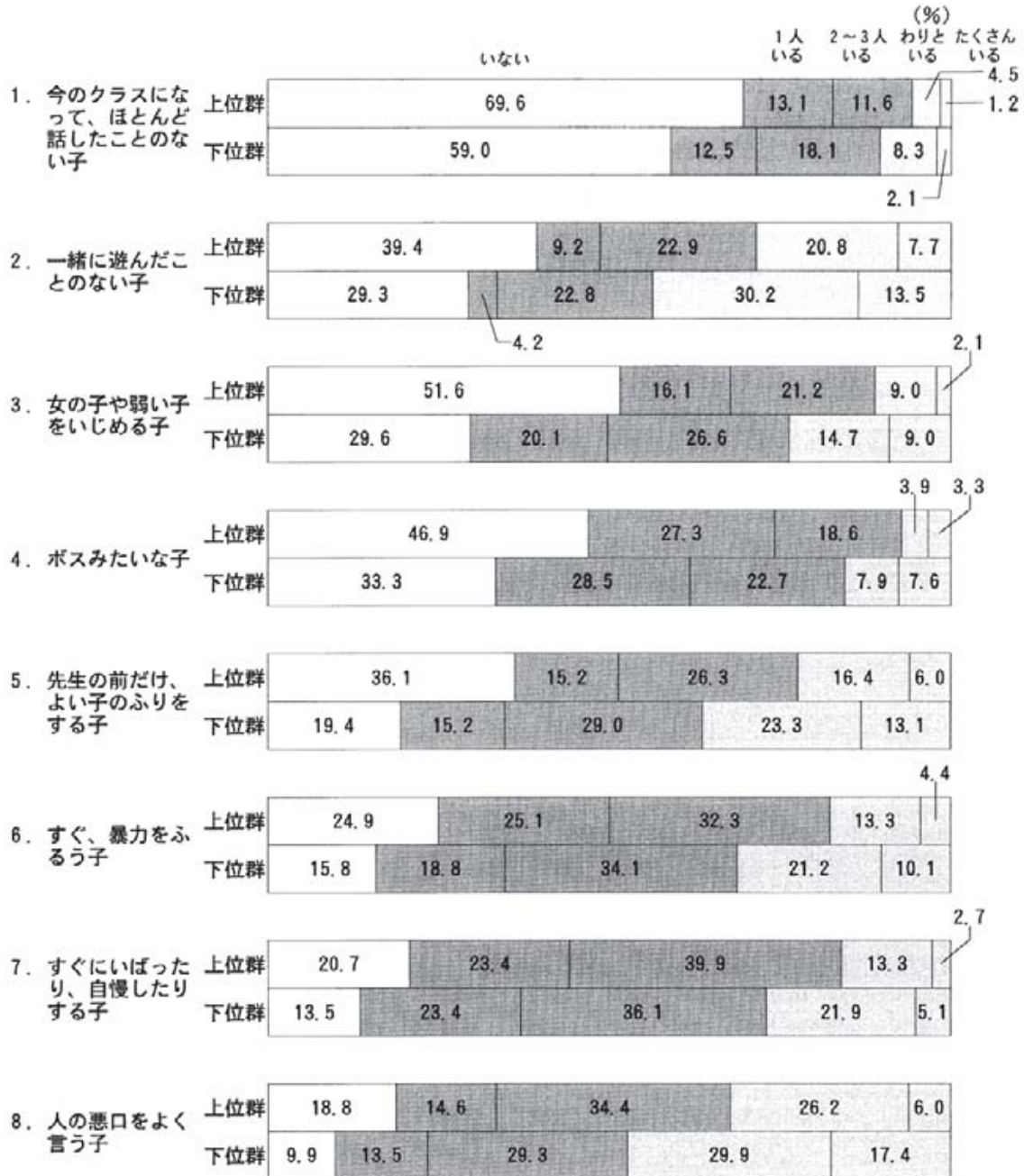
●クラスの雰囲気)))

クラスの中にどんな子がいるのか、クラスがどんな雰囲気を持っているのかは、子どもたちの居心地のよい学級として重要なことと考えられる。そこで図2では、クラスの中にいる、特に「クラスに影響を与えるだろう友だちのタイプ」をあげ、「学級への満足度」が85%以上の上位群と60%未満の下位群に、そうした友だちが「どのくらい存在しているか」の割合を示した。図によれば、「今のクラスになって、ほとんど話したことのない子」が「いない」と答えた割合は上位群で70%、下位群で59%。下位群では調査時期の学年末の3月になっても「ほとんど話したことがない子」が「1人以上いる」割合が4割と高い数値がみられる。上位群と下位群の差の大きい項目をみると、「一緒に遊んだことのない子」「ボスみたいな子」「先生の前

だけ、よい子のふりをする子」「すぐ、暴力をふるう子」「人の悪口をよく言う子」と問題を抱えているような子どもたちが下位群に多い割合が多く、クラスの中でうまく人間関係が作れない状況が推測できる。こうした子どもたちの存在は下位群の担任の調査票の中からもみられ、自由記述にクラス運営上の悩みとして書かれているので、以下にあげておく。

- ・ 4、5人まじめにできない子がいる
- ・ 判断力がもう少しつくとよい
- ・ 全体に落ち着きに欠ける
- ・ 女子の間でトラブルがある（「○○さんが悪口を言った」など）
- ・ リーダーシップを発揮する子とそうでない子の差が著しい、など

図2 クラスにいる特徴のある子 × 学級への満足度（上位群・下位群）



次に、表32は、クラスの雰囲気を探ねた結果である。表は「学級への満足度」85%以上の上位群と60%未満の下位群のクラスを比較している。そして、上位群の数値から下位群の数値を引いた数値を両群の差として示した。上位群では「先生に『静かにしなさい』と注意されたら、すぐ静かになる」「休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる」「係の仕事をしっかりする子が多い」と答える割合が高く、下位群との差が顕著である。逆に、下位群では「授業中、隣や後ろの子とむだ話

をする子が多い」「昼休み、自分の好きな子だけで遊ぶ子が多い」「休み時間、教室でぶらぶらしている子が多い」「失敗すると、『エー』と言ったり、笑ったりする子が多いので発表しにくい」と答える子が多い。

上位群ではクラス内で先生や仲間が信頼感や安心感を持って生活できる雰囲気ができており、下位群のクラスではお互いを認め合う関係がクラス内でうまく作られていない様子がうかがえる。

表32 クラスの雰囲気 × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	上位群 (A)		下位群 (B)	差 (A-B)
1. 先生に「静かにしなさい」と注意されたら、すぐ静かになる	66.8	>	47.2	19.6
2. 休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる	69.1	>	47.7	21.4
3. 係の仕事をしっかりする子が多い	66.5	>	47.3	19.2
*4. 授業中、隣や後ろの子とむだ話をする子が多い	61.6	<	78.6	-17.0
*5. 昼休み、自分の好きな子だけで遊ぶ子が多い	57.1	<	63.8	-6.7
*6. 休み時間、教室でぶらぶらしている子が多い	52.7	<	58.8	-6.1
*7. 失敗すると、「エー」と言ったり、笑ったりする子が多いので発表しにくい	33.0	<	58.1	-25.1

「とても」+「わりと」そう思う割合
 ○は10%以上の差
 *はネガティブな項目

●クラスの友だちとのつきあい)))

次に、クラスの中ではどんな友だちと、どんなつきあいをしているのだろうか。図3はクラス内での友だち関係を示した。上位群と下位群の差が顕著な項目を友だちが「1人以上いる」割合で見ると、「よくないことをしたとき、注意してくれる友だち」「しょっちゅう電話をかける友だち」「一緒に宿題や勉強をしたりする友だち」「困ったとき、相談にのってくれる友だち」が上位群に高い割合を示している。そして、「学校で、トイレ

と一緒にいたりする友だち」「忘れ物をしたとき、借りたり貸したりする友だち」「休み時間、一緒に遊ぶ友だち」が「1人以上いる」割合は、上位群・下位群で差がみられない。

上位群の子どもたちは、家に帰ってからも一緒に宿題や勉強をしたり、よくないことをしたとき注意してくれるなど、人間関係がより親密で、円滑な関係を維持している様子が見えてくる。

図3 クラスの友だち × 学級への満足度（上位群・下位群）



表33は、クラスの友だちとどんなことをしているか、「友だちとの接触体験」を上位群・下位群別に「何回もある」割合で示した。上位群・下位群で比較すると、「友だちの家族に『おはよう』などのあいさつをする」

「放課後、一緒に遊ぶ」の項目に10%以上の差がみられ、次いで「休みの日に、友だちと一緒に遊ぶ」「友だちに電話をかける」があげられる。学校以外でのつきあいや、友だちの家族との接触機会も持っていることがわかる。

表33 今のクラスの友だちとの体験 × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	上位群 (A)		下位群 (B)	差 (A)-(B)
1. 休みの日に、友だちと一緒に遊ぶ	73.9	>	65.3	8.6
2. 友だちに電話をかける	73.5	>	66.1	7.4
3. 友だちに年賀状や夏休み中に手紙を出す	67.0	<	70.0	- 3.0
4. 友だちの家族に「おはよう」などのあいさつをする	63.1	>	51.5	11.6
5. 放課後、一緒に遊ぶ	66.0	>	52.7	13.3
6. 放課後、友だちの家に行って遊ぶ	60.1	>	54.0	6.1
7. 友だちにマンガなどを貸したり借りたりする	32.1		32.1	0.0
8. 休みの日に、友だちと電車やバスで遠出をする	21.4	>	19.6	1.8

「何回もある」割合
○ は10%以上の差

そうしたクラスの子どもたちが抱く「クラスイメージ」は、表34によれば、上位群の子どもたちは「先生と仲のよいクラス」「まとまりのあるクラス」「男女の仲がよいクラス」のイメージが特徴的で、両群には30%以上の大きな差が認められ、次いで「クラスの約束をよく守る」「よく運動する」イメージがあげられ、下位群の子どもの抱くクラスイメージとの違いが顕著である。

表35～38は、子どもたちによるクラスの評

価である。まず、クラスの自己採点をみると、上位群の子どもたちは自分のクラスが平均点以上と評価する割合は9割、下位群では6割と差が顕著にみられる（表35）。

表36は「今の自分のクラスを好きか」と尋ねた結果である。上位群では「とても好き」62%、「わりと好き」を合わせると、87%が自分のクラスに好感を持っている。そして、「学年が変わっても今のままのクラスでいたい」と「とても・わりとそう思う」子が79%

表34 クラスイメージ × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	上位群 (A)		下位群 (B)	差 (A)-(B)
1. 笑い声の多いクラス	92.6	>	81.5	11.1
2. 楽しいクラス	97.4	>	76.2	21.2
3. よく遊ぶクラス	88.2	>	75.5	12.7
4. 先生と仲のよいクラス	85.4	>	47.1	38.3
5. よく運動するクラス	81.0	>	53.9	27.1
6. 男女の仲がよいクラス	59.7	>	27.1	32.6
7. まとまりのあるクラス	55.6	>	18.2	37.4
8. 授業中、よく手を挙げるクラス	63.3	>	37.5	25.8
9. よく勉強するクラス	40.1	>	28.0	12.1
10. クラスの約束をよく守るクラス	47.8	>	18.9	28.9

「とても」+「わりと」そう思う割合
○は25%以上の差

と高い数値を示している（表37）。一方、下位群は「今のクラスが「とても・わりと好き」と答える子は46%、「学年が変わっても今のままのクラスがよい」と「とても・わりとそう思う」子は40%と5割にも満たない。逆に、「あまり・ぜんぜんそう思わない」子が36%おり、学級への不満を抱えている様子がみえる。こうした子どもたちは新学期にクラス替えがあればホッとできるかもしれないが、学年が変わってもクラス替えがなければ、

もう1年、こうした生活を送らねばならない可能性も秘めていることが予想される。

表38は、「今のクラスになってよかったか」の「学級への満足度」の差を上位・下位群で詳しく示した。

そして、「学級への満足度」が高い上位群の子どもは、表39・40・41に示したように、学校へ来るのが楽しみになり、成績や自己像を高め、学校生活を充実したものにしている。

表35 クラス評価 × 学級への満足度（上位群・下位群）

(普通のクラスを60点として) (％)

	100点	90点	80点	70点	60点	50点	40点	30点以下
全体	9.6	16.5	25.3	20.9	7.5	11.1	5.3	3.8
上位群	18.3	26.2	24.3	17.4	5.4	4.8	2.4	1.2
	86.2					8.4		
下位群	5.5	7.4	23.8	20.6	8.6	16.6	9.8	7.7
	57.3					34.1		

表36 今のクラスは好きか × 学級への満足度（上位群・下位群）

(％)

	とても好き	わりと好き	少し好き	あまり好きでない	ぜんぜん好きでない
全体	38.3	30.5	20.1	8.0	3.1
	68.8				
上位群	61.8	25.4	8.9	3.0	0.9
	87.2				
下位群	17.4	28.7	31.1	17.4	5.4
	46.1				

ここで、今までみてきた「学級への満足度」を規定する要因をまとめてみよう。

「学級への満足度」の高い上位群と下位群を比較し、担任やクラスの雰囲気、友だち関係の項目の中から差の顕著な項目に注目し、両群のクラスを特徴づけると、

〈上位群〉

①担任との接触

- ・「がんばったね」と言われてうれしかったこと
- ・先生の方からあいさつしてくれたこと

- ・困っていることを相談にのってもらったこと

②担任イメージ

- ・心配ごとと一緒に考えてくれる
- ・何かを決めるとき、話し合いを大切にする
- ・休み時間、外で遊んでくれる

③クラスの雰囲気

- ・休み時間、先生のまわりにすぐ子どもが集まる
- ・先生に「静かにしなさい」と注意された

表37 学年が変わっても今のままのクラスがよいか × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	少し そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜん そう思わない
全体	35.5	23.2	21.5	12.9	6.9
	58.7				
上位群	55.6	23.7	13.0	5.9	1.8
	79.3				
下位群	18.5	21.2	24.5	23.3	12.5
	39.7			35.8	

表38 今のクラスになってよかったか × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	とても よかった	わりと よかった	少し よかった	あまりよく なかった	ぜんぜん よくなかった
全体	41.8	29.4	18.6	7.1	3.1
	71.2				
上位群	66.5	22.8	7.4	2.7	0.6
	89.3				
下位群	20.3	25.4	31.6	17.0	5.7
	45.7				

- ら、すぐ静かになる
- ・係の仕事をしっかりする子が多い
- ④友だち関係
 - ・放課後、一緒に遊ぶ
 - ・友だちの家族に「おはよう」などのあいさつをする
 - ・休みの日、一緒に遊ぶ
- ⑤クラスイメージ
 - ・先生と仲のよいクラス
 - ・まとまりのあるクラス
- ・男女の仲がよいクラス
- <下位群>
 - ①影響のある子
 - ・女の子や弱い子をいじめる子がいる
 - ・先生の前だけ、よい子のふりをする子がいる
 - ・ボスみたいな子がいる
 - ②クラスの雰囲気
 - ・失敗すると、「エー」と言ったり、笑ったりする子が多いので発表しにくい

表39 学校の楽しさ × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	とても 楽しみ	わりと 楽しみ	少し 楽しみ	あまり楽しみ でない	ぜんぜん 楽しみでない
全 体	26.5	34.5	22.4	10.8	5.8
	61.0				
上位群	40.4	34.7	15.4	5.0	4.5
	75.1				
下位群	19.0	33.1	26.2	15.2	6.5
	52.1				

表40 成績 × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
全 体	10.8	20.4	42.7	17.4	8.7
	31.2				
上位群	11.7	23.1	40.6	16.8	7.8
	34.8				
下位群	9.9	18.3	42.7	19.5	9.6
	28.2				

- ・授業中、隣や後ろの子とむだ話をする子が多い
- ・昼休み、自分の好きな子だけで遊ぶ子が多い

子どもたちが「満足感を持てるクラス」とは、クラスの中で子どもどうしがお互いを認め合い、子どもどうしの人間関係に親密さと豊かさがあり、クラスの担任・子どもどうしの仲のよさや学級集団としてまとまりのある

雰囲気のあるクラスである。そうしたクラスを子どもたちは望んでいる。また、そのようなクラスは、担任が一人一人の子どもたちを理解し支え、子どもから信頼され、子どもたちと人間的な信頼関係を築いており、担任の存在が大きいことが認められる。

クラスへの信頼感と安心感は子どもたちの学校生活を充実したものにし、子どもたちの成長発達にプラスの影響を与えるといえよう。

表41 自分のタイプ × 学級への満足度（上位群・下位群）

(%)

	上位群 (A)		下位群 (B)	差 (A)-(B)
1. 仲よしの友だちが多い	85.2	>	77.3	7.9
2. スポーツが得意	53.9	>	51.5	2.4
3. 活発である	56.5	>	51.5	5.0
4. 他のクラスの子と遊ぶことが多い	38.9	<	49.3	-10.4
5. 苦しいこともがまんできる	66.2	>	59.3	6.9
6. 忘れ物をしない	48.3	<	51.6	-3.3
7. きまりを守る	54.8	>	44.7	10.1
8. 勉強が得意	38.2	>	32.3	5.9
9. クラスのみんなから人気がある	30.3	>	21.1	9.2

「とても」+「わりと」その割合
○は10%以上の差